

科目名称：	食の商品化と流通	
担当者名：	井上 克洋、越野 裕美子	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	講義	2
授業の目的・テーマ		
本講義は、将来フード関係の仕事に就きたい学生及びフードに興味を持っている皆さんに、食の商品化と流通に関する基本的な仕組みやその考え方を理解してもらうことを目指しています。新聞やテレビ報道で話題になっている食の商品開発や流通に関するニュースに出来る限り触れながら、フード業界に就職した際に役立つ講義を行います。		
授業の達成目標・到達目標		
①食の商品化と流通に関する基本的な用語と仕組みを理解すること、②新聞やテレビで話題になっている食に関するニュースの背景や内容が理解できるようになること、③フード業界の人々が話題とするようなフードビジネスのトピックスについて意見交換が出来るようになること。		

ビジネス実務学科	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP (1)	建学の精神と設立の理念を基に、ビジネス社会で求められる基礎知識を修め、地域社会を理解するとともに多様な文化に対応できる幅広い教養が身につけている。	
DP (2)	医療事務や観光業を含むビジネスの専門知識や技能を身につけ、各種資格を取得し、ビジネスワーカーとして他者と協調・協働することのできる実践力を身につけている。	○
DP (3)	多様なビジネス社会に対応できるよう豊かな人間性を養い、人との関わりの中で自己の考えを的確に表現するとともに、他者の意見を尊重し良好な信頼関係を築いていくことができる。	
DP (4)	学生一人ひとりが、ゼミナールを通して、ビジネス現場における様々な課題に取り組み解決する学修経験を積み重ねることで、その場の状況に応じた活用力を身につけている。	

評価方法/ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
ビジネスDP (1)					0
ビジネスDP (2)		30	60	10	100
ビジネスDP (3)					0
ビジネスDP (4)					0
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の实務経験の内容（内容・経験年数を記載）
なし	谷口英樹 カナカン(株) 専務取締役（予定）
	中田二郎 天狗中田産業(株) 取締役社長（予定）
	岡嶋啓介 丸果石川中央青果(株) 常務取締役（予定）
	紙谷一成 ヤマカ水産(株) 代表取締役（予定）
	山本晴一 (株)ヤマト醤油味噌 代表取締役社長（予定）
	不室康昭 (株)加賀麩不室屋 代表取締役社長（予定）
	水上慎太郎 ダートコーヒー(株) 代表取締役（予定）

評価ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間(分)
第1回 オリエンテーション&流通に関するDVD学習	食の流通について、近年のニュースを集めてまとめる。	40分
第2回 流通に関するDVD学習&ディスカッション&レポート作成	DVDの内容について気づいたこと等をメモにまとめる。	40分
第3回 流通の基本知識	流通とはどういう意味か、予習してくる。	40分
第4回 卸売業・小売・物流	卸売業・小売・物流とはどのような業種か、予習してくる。	40分
第5回 流通業実務家講師講演Ⅰ	実務家講師の会社について調べ、疑問点があれば質問の準備をしておく。	40分
第6回 流通業実務家講師講演Ⅱ	実務家講師の会社について調べ、疑問点があれば質問の準備をしておく。	40分
第7回 流通業実務家講師講演Ⅲ	実務家講師の会社について調べ、疑問点があれば質問の準備をしておく。	40分
第8回 流通業実務家講師講演Ⅳ	実務家講師の会社について調べ、疑問点があれば質問の準備をしておく。	40分
第9回 流通業実務家講師講演Ⅴ	実務家講師の会社について調べ、疑問点があれば質問の準備をしておく。	40分
第10回 流通業実務家講師講演Ⅵ	実務家講師の会社について調べ、疑問点があれば質問の準備をしておく。	40分
第11回 流通業実務家講師講演Ⅶ	実務家講師の会社について調べ、疑問点があれば質問の準備をしておく。	40分
第12回 商品開発～DVD学習・ディスカッション	DVDの内容について気づいたこと等をメモにまとめる。	40分
第13回 商品開発の基本	商品開発に必要なことは何か、予習してくる。	40分
第14回 商品開発～グループワーク	発表会に向けて、グループごとに発表内容をまとめておく。	40分
第15回 商品開発発表会	発表会に向けて、グループごとに発表内容を仕上げ、発表練習をしておく。	40分
<p>事前事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め短期大学設置基準で規定された学修時間が必要である。 また、事前事後学修としては、次回までの課題プリント(小レポート)をまとめることになる。</p>		
成績評価の方法・基準		
<p>定期試験は、実施しない。その他の評価配分は、以下のとおりである。 100点満点。第2回目の講義のレポート10点、第7回目の小テスト30点、第15回商品開発発表会50点、講義に関する積極的関与度合10点で採点する。</p>		
課題に対するフィードバック		
<p>レポートに関しては、記載すべき必要事項について解説する。小テストについては、記載すべき必要事項について試験後に解説し、模範解答を示す。商品開発発表会については、発表後に評価コメントを行う。</p>		
教科書・参考書		
<p>講義レジュメを毎回配布する。参考書については、適宜紹介する。</p>		